

自然を活用した東京都版保育モデル

【概要報告】



モデル事業実施目的

- 自然の中での体験や自然環境を活用しての教育は、子供の主体性や想像力、思考力、コミュニケーション能力などに代表される非認知能力を養うために効果的であるということを踏まえ、保育所等において、自然を活かした保育活動を通じて幼児教育がさらに充実することを最終的な狙いとしている。
- 東京都の特性を活かし、より効果的な取組となるよう、東京都内の自然環境を活用した東京都版保育モデルを作成することを目標として事業を実施した。

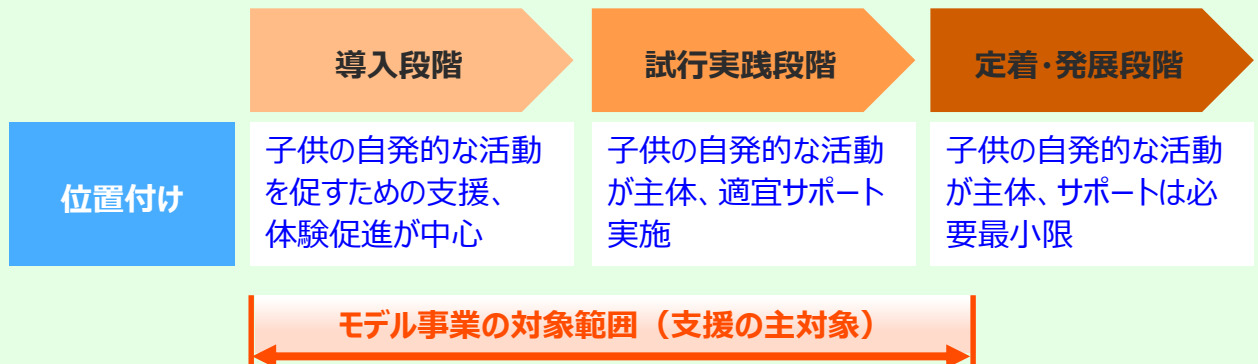
モデル事業実施基本方針

- モデル事業の実施にあたっては、以下の基本方針を設定し、取組を進めた。

- ① 園の日常的・継続的な活動として実施する
- ② 子供の自主性・自発性を促すために近隣の自然環境下で自由に遊ぶ活動を中心とする
- ③ 各保育所が実施している取組の一環としての自然活用とする
- ④ 保育者への事前の情報提供、研修を実施し、実践のポイントの共有を図る
- ⑤ 近隣環境下での活動効果を高める狙いで遠隔地での活動を行う

モデル事業の位置付け

- 本モデル事業では、以下のように活用に向けた段階を整理し、活動を行った。



【南千住七丁目保育園（荒川区）でのモデル活動の様子・子供の変化（例）】

近隣での活動（初回）

自然物探しゲーム



グループでいろんなアクティビティ



遠隔地での活動

広場でお土産探し



斜面を駆け下りる



力を合わせて丸太運び



近隣での活動（最終）

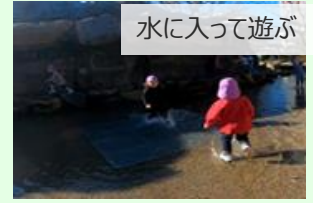
思い思いの遊び場所へ



変わった木の実発見



水に入って遊ぶ



自然を感じる様子の変化

・果実の香りに興味を寄せる子供の様子がみられるなど、自然の感じ方に変化がみられた。

自然物を使った遊びの増加

・枝や草を釣竿に見立てて、ザリガニ釣りを試みるなど、自然物を活かした遊び方の広がりがみられた。



↑果実の香りに
関心を示す様子

植物を釣竿に見立てて
釣りを試みる様子↓



【せせらぎ保育園（清瀬市）でのモデル活動の様子・子供の変化（例）】

近隣での活動（初回）

道中で見つけたサメのような雲



枝を使って家づくり



遠隔地での活動

山の斜面を駆け下りる



あぜ道を駆け回る



落ち葉遊び



近隣での活動（最終）

棒で穴掘り



遊び方のルールの確認



みんなで振り返り



【せせらぎ保育園（清瀬市）でのモデル活動の様子・子供の変化（例）】（続き）

移動中の気づきの増加

・活動場所までの移動の中でも子供たちが、変わった形の雲の発見や霜柱への興味など、いろいろなことに気づき、関心を持つことが増えた。

子供同士の関わりの変化

・子供同士で話しながら遊び方を考えたり、協力して何かを実践する様子が増え、子供同士の関わり方にも変化がみられた。



←移動の際に見つけた霜柱を手にする様子

協力して→丸太を運ぶ様子



【まちの保育園小竹向原（練馬区）でのモデル活動の様子・子供の変化（例）】

近隣での活動（初回）

切り株を使っておまごど



遠隔地での活動

落ち葉遊び



園の取組

自然素材での作品づくり



力を合わせて丸太を動かす



雨水を活かした遊び

みんなで大きな木を運ぶ



まつぼっくりを見つける



落ち葉を楽しむ子供と寄り添う保育者

活動のドキュメンテーション化



普段関わりの少ない子供同士の遊び

・普段と異なる場所での活動では、新たな遊び、気づきが生まれており、普段は関わるのが少ない子供同士と一緒に遊びだす様子がみられた。

いつもと異なる環境での気づきの増加

・いつもの活動よりも広大な場所での遊びにおいて、「人が小さく見える」といったような感じ方を表現する声が聞かれるなど、多くの気づきがみられた。

いつもと異なる→友達との関わり



←いつもより広い場での遊びを通じた気づき・表現

<モデル事業での活動を通じた“子供”の変化>

モデル活動を通じて、子供たちには以下のような変化がみられた。

- ・それぞれの遊び方の広がり、変化
- ・自然を通じた気づきの増加、表現の広がり
- ・子供たち同士の関わりの変化、協力する姿勢

<モデル事業での活動を通じた“保育者”の変化>

モデル事業での活動を通じて、保育者にとっては以下のような気づき、変化があったという意見が得られた。

- これまで不安や懸念に感じていたことについて先入観もあったことがわかった。子供が自然の中での遊びに慣れてくると、保育者の関わり方によって解消できることも多く、より見守りに徹した関わり方ができるようになった。保育者としての意識が変わったと思う。
- 子供は遊びの“きっかけ”をつかめれば、自分たちで工夫したり、協力したりして遊びこんでいくことができるということが体験を通じてわかった。ある程度子供との距離をとって見守ることを意識したり、その結果として視野が広がったように感じる。
- 広い場所で遊ぶ際にも、子供たちはある程度見ることができる範囲で遊んでおり、想像していたほどの危険がないのだと思った。
- 保育者として、子供たちには危険だと思っていたり、難しいと思っていたことが、想像以上にできるということが体験できた。
- これまで試行錯誤しながら実施していたことについて自信を持って取り組んでいけると感じた。

【モデル事業活動の総括】

今回のモデル事業は、短期間かつ一定の制約のある中での活動ではあったものの、モデル事業参加施設ではいろいろな“気づき”や“変化”もみられた。

その結果、今後の継続的な取組のきっかけ、各園がこれまで実施していたことを後押しする材料とすることができ、一定の成果が得られた。

自然を活用した東京都版保育モデルを作り上げるための第一歩となる取組となった。

モデル事業で得られた成果



保育者の意識の変容、それに伴う子供との関わり方の変化がみられた



子供たちの遊び方に変化の兆しがみられた



(一部ではあるが) 保護者・家庭での取組のきっかけとなった

今後のさらなる取組の促進に向けた検討事項



自然を活用した保育についての保育者・保護者向けの情報発信・理解促進



東京都内で活用できる環境・資源情報の把握



都市部ならではの自然を活用した取組のモデル化、情報還元



資源を有効に活用するための地域・関係者を巻き込んだ取組の試行

※活動内容の詳細は『自然を活用した東京都版保育モデル活動報告書』をご覧ください。

自然を活用した東京都版保育モデル活動報告書（リーフレット）

令和2年3月発行

編集・発行

東京都福祉保健局少子社会対策部保育支援課

電話 直通 03(5320)4129

登録番号(31)511